

日本の高度経済成長

2010 順天堂大学（抜粋） まず、この過去問を解こう。

正解 ③

問8. 下線部(コ)について述べた文として、内容の正しいものを次の1~4から選び、その番号をマークしなさい。

(コ) = 西欧および日本の目覚ましい経済成長

- ① イギリスはヨーロッパ石炭鉄鋼共同体(ECSC)の一員として、欧州の経済発展に貢献した。
- ② フランス経済を発展させたミッテランは、NATOへの軍事協力を拒否し、独自の立場を主張した。
- ③ アデナウアー首相のもとで、西ドイツは奇跡と呼ばれる経済成長に成功した。
- ④ 朝鮮戦争以前に、日本は重化学工業を中心とする高度経済成長に成功し、国際連合に加盟した。

1) 前掲過去問の解説をしよう。①はイギリスはEUに1973年に加盟したが、それ以前の欧州統合には参加していない。2016年に国民投票で脱退決定。②のNATO軍事部門からの撤退は1966年、ド=ゴール政権下である。③は正しいのでこれが正解。④は、日本の高度成長は【1: 】による**特需（軍需の言い換え）**がきっかけとなっているので、「朝鮮戦争以前に」が誤り。日本の国際連合加盟は1956年の【2: 】との国交回復（日ソ共同宣言）によって実現したから、これも「朝鮮戦争以前」ではない。**朝鮮戦争は1950~53年**である。

2) 日本の高度経済成長の始期にはいくつか説がある。

- ①1955年始期説は、『世界史用語集』『日本史用語集』（山川出版社）など。
- ②「1956年頃から」とするのは『詳説世界史』（山川出版社）。これは①とほぼ同じである。
- ③1960年始期説は、『携世界史用語集』（実教出版社）・『旺文社日本史辞典』（旺文社）など。

高度経済成長をどう定義するかから来る相違で、「毎年10%以上の大台に乗ってから」と定義すると③1960年始期説になる。また「所得倍増」で有名な池田内閣の成立も1960年である。しかし、1960年以前でも8%とか9%に達し欧米の2~3倍だったので、10%に達しないと「高度」ではないというのは説得力に乏しく、①②が適切であるが、入試問題リード文が③で書かれている場合もある。**日本の鉱工業生産指数は1953年（著者が生まれた年）に戦前の平時の値にまで回復し、2年間の「助走」を経て1955から56年、世界が目を見張った高度経済成長を開始した。**このように覚えよう。高度経済成長のシンボル、東京タワーの完成は1958年である※1。1960年代には、経済成長率は毎年、前年比+10%を越えた。これは世界の資本主義の歴史の中でもまれに見る奇跡である。第1回東京オリンピックは1964年である。終期については更に諸説が有る。

※1 この時期に(1958年ごろから)、いわゆる「ミッチーブーム」おこる（各自調べよ）。諸君の祖母様の年代には、漢字は様だが「みちこ」とさんとおと読む名前の女性が大勢おられる。国民的娯楽映画『釣りバカ日誌』のハマちゃんこと浜崎伝助の妻の名も当然「みちこさん」である。

3) 高度経済成長の始期の頃、1955年に保守合同によって、【3: 】が結成され、38年間にわたり一党単独政権を保った。実は、同年、左派と右派に分裂していた【4: 】が統一されていた。衆議院の議席の3分の2を占めて政権を担当する自民党と、残り3分の1を占める社会党が対決する構造を【5: 】と呼び、1993年まで続いた。

4) 1959~60年には、日本の政治運動の歴史に残る【6: 】が展開された。それは、1951年締結の【7: 】を改訂 ※2・継続することに反対する国民的大運動だった。連日の大規模なデモは国会を取り囲み、アイゼンハワー大統領の訪日も中止された。条約は批准されたが、1960年7月、【8: 】内閣は総辞職した。次の【9: 】内閣は、「所得倍増」計画を打ち出した。1965年には、佐藤栄作内閣と朴正熙政権との間で【10: 】が締結され、国交が正常化された。

※2 旧安保条約と比べ、軍事同盟の色彩が濃く、アメリカとの結びつきは一層強まった。学者の中には「日米軍事同盟」と表現する人もいる。1970年以降自動延長されており、日米のどちらか1方が、廃棄通告をすれば1年後に消滅する。

「雪どけ」とは

《復習》【11: 】政権（1953~61年）は1953年に朝鮮戦争を休戦させる一方、先代トルーマン以来の「封じ込め政策」以上に強硬な反共政策、すなわち【12: 】Ro11-back Policy に転換した。具体的には、世界各地の友好国と軍事同盟を結び、軍事援助を行う。「巻き返し政策」は「雪どけ」で終わる。

1) 1955年から1960年代にかけて米ソ両国の間で緊張が緩和し、冷戦が終わったわけではないが、以下のような東西関係の一定の改善があり、人々はこれを「雪どけ」※3と呼んで歓迎した。なお、「平和共存政策」はこの時期のソ連の政策の自称である。

※3 「雪どけ」はロシア起源の言葉。スターリン死後のソ連社会の解放感をエレンブルクの小説名にちなんで表現した言葉。

2) 1955年 【13: 】（「四」は無くてよい）は、具体的合意事項は特になかったが、米ソ「雪どけ」の起点とされる。その時の「四巨頭」を全部書けという出題例がある。

米：アイゼンハワー、英：イーデン、仏：フォール、ソ：ブルガーニン

3) ソ連では、1953年に【14: 】が死亡（1953年）、【15: 】がソ連の実権を握った。

彼は、その2年後の1965年、スターリン時代の個人崇拜・大量粛正・大国主義を批判し（スターリン批判）、1956年には、資本主義国とも平和に共存できるとする【16: 】を打ち出した。

1955年、西ドイツと国交回復、オーストリアと国家条約締結

1956年、【17: 】を解散。日本と国交回復（日ソ共同宣言）→1956年12月、日本は国際連合に加盟
スターリン批判と【16】は東欧社会主義国に衝撃を与え（後掲）、ソ連の【16】への転換（1956年）は激しい中ソ対立を惹起した！

- 4) **フルシチョフ**は東欧諸国の自由化を力で抑圧（後掲）しながら経済改革を行い、1957年には大陸間弾道ミサイル（ICBM）の技術に直結する人工衛星【18: **スプートニク1号**】の打ち上げに成功した。こうした自信を背景に、1959年、訪米し、アイゼンハワー大統領と米ソ首脳会談をキャンプデーヴィットで行い、対話路線を強調した。しかし、翌1960年には、アメリカの偵察機U2※4がソ連上空を偵察中に撃墜され、米ソは再び緊張関係に戻り、1962年のキューバ危機へとつながって行く。

※4 ロッキード U-2 (Lockheed U-2) はロッキード社がF-104をベースに開発したスパイ用の高高度偵察機。初飛行は1955年。「黒いジェット機」の異名もある。戦闘機が飛べない2万5千kmの超高空から精密偵察を行う。現在も運用されている。

《蛇足》「U2」というロックバンドを知っているだろう。1980年のデビューから現在に至るまでオリジナル・メンバーのまま活動。発表した作品は世界中のファンから支持されている。世界に渦巻く社会問題を楽曲のテーマとしている。宗教紛争や反核運動、アパルトヘイトなどの人権問題、薬物依存症などについてメッセージ性の強い曲を発表、チャリティー・イベントにも積極的に参加している。また、コンサートの規模や動員数でも世界最大・最高のバンド。というわけで、バンド名も高高度偵察機U2が由来かと思いきや、発音した時に“YOU TOO”や“YOU TWO”などのようにどつどもど取れるということもあって、この曖昧さのために「U2」にしたとも言われている。

ソ連は東欧社会主義圏の崩壊を容認しない

スターリン批判をきっかけとして、東欧諸国に、ソ連からの自立と民主化を求める運動が広がったが、ソ連はこれを武力で押しつぶした。

1956年 ポーランド反政府反ソ暴動（ポズナニ暴動）

ポズナニで労働者・学生らが生活苦や自由の抑圧に不満を高めて反乱を起こし、軍・警察と衝突。

統一労働党第一書記に選ばれた【19: **フルシチョフ**】（あるいはゴムルカ）は、ソ連軍の介入をおそれて、みずからこれを弾圧した。ソ連の直接介入は回避されたが、多くの犠牲者を出した。

1956年 【20: **ハンガリー事件**】（ハンガリー事件）

首都ブダペストで、知識人・学生・労働者らが起こした社会主義体制とソ連からの離脱を求める大衆運動が全国に広がった。

改革派の【21: **ナジ**】1895-1958 が新首相に就任しソ連軍の撤退、一党独裁の廃止、ワルシャワ条約機構からの脱退など社会主義陣営からの離脱に動いたが、出動したソ連軍に押しつぶされ、ナジも後に反逆罪で処刑された。

1950年代後半 西ドイツの経済復興にあこがれ、東ベルリンから西ベルリンへ脱出する市民が増加した。特に1950年代末に東ドイツで農業の集団化が推進されると、越境者は急増した。東ドイツ政府は、1961年、東西ベルリンの境界に壁（ベルリンの壁）を築いた。なお、この壁は1989年11月9日無力化、10日破壊開始。

「空から死が落ちてきて……」

2016年5月28日、アメリカのオバマ大統領（当時）の広島でのスピーチの冒頭部分

東西両陣営は世界各地で通常兵器で対峙する一方で、【22: **原子爆弾**】（厳密には核弾頭）と【23: **ICBM**】（=大陸間弾道ミサイル）の開発で競争した。ICBMの開発は1957年ソ連、1958年アメリカ。

《「軍事オタ」でなくともこの位は現代人なら知っていて当たり前》

大陸間弾道ミサイル（Intercontinental ballistic missile 略称ICBM）の最小限の知識。

- 核爆弾は有人のステルス爆撃機を目標上空に突入させ投下することも可能だが、**大陸間弾道ミサイルは爆撃機によらず迅速確実に、しかも大洋に隔てられた大陸間を飛翔し自国の本土から敵本国を直接攻撃できる**メリットを持つ。弾頭は常に水素爆弾。有効射程距離は8000kmから1万kmに達する。アメリカは1940年代後半から開発を進めていたが、世界最初のICBMは初の人衛星スプートニク1号の打ち上げに使用された旧ソ連のR-7である（1957年）。
- 地上に掘られたサイロと呼ばれる縦穴、もしくは海中の潜水艦などから発射され、数百kmの高度までロケット噴射によって飛行し、その間に速度、飛行の角度等を調整して目標地点へのコースが決定される。ミサイルと言ってもイージス艦から発射されたミサイルが突入の瞬間まで無線誘導されるのは大きく異なり、ICBMは弾頭だけが慣性により無誘導のまま突入する。その軌道は、大型の砲弾※5と同じく、地球の中心を焦点の一つとする楕円軌道を描き、頂点高度は1000kmから1500kmにもなる。砲身なしで打ち出される巨大な砲弾と考える事もできるので、ミサイルの仲間に入れず「大陸間弾道弾」と呼ぶ専門家もいる。秒速約7kmで大気圏外を飛翔し（秒速約8kmに達すると人工衛星となり地表に落下しない）、逆噴射を要せず大気圏再突入を行い、マッハ20以上の高速で目標に突入する。最終突入段階の核弾頭内部では強大な重力加速度を感知して最終安全装置が解除されると想像される。そうなったらもう神でも止められない。そして設定された高度で起爆しヒロシマ、ナガサキの数百倍もの地獄が現出する。
※5 **戦艦大和の主砲**は、当時世界最大の「46センチ砲」。射程距離は実に42km（東京で言うと羽村・新宿間）。砲弾は、長さ約2m、重さは1.46t。一発撃つのに使う火薬の量は330kg。砲弾は、時速2,808km（秒速780m）で射出され、1分間に60回転しながら飛翔する。仰角45度で発砲すると、最高高度は11km（それでもICBMの100分の1程度に過ぎない）に達する。射撃諸元には風速風向はもとより、地球の自転方向と発射方位の相関も含まれていた。
- 初期のICBMは単弾頭であったが、弾頭のMIRV化により、一基のミサイルに複数弾頭を搭載し、個別に別の目標を攻撃できるようになった。初期のICBMは液体燃料であったが、1960年にアメリカで固体燃料が実用化された。構造が簡単で小型かつ安価であり、安定性も高く、同時に多数の即時発射が可能であるので、アメリカでは固体燃料のICBMが主流を占めた。一方旧ソ連では液体燃料に固執し、ミサイル内に燃料を入れたままサイロ内で保持できる貯蔵式液体燃料のICBMを多数配備した。ソ連潜水艦搭載のものも同タイプで、万一海水が侵入すると燃料と化学反応を起こし、硝酸ガスを発生するとされている。
- 現在ICBMを配備している国はアメリカ、ロシア、中国の3国のみで、この3国に並ぶ核大国であるイギリスはICBMを配備せず潜水艦発射弾道ミサイル（SLBM）のみである。またフランスは冷戦期間中に中距離弾道ミサイル（IRBM）を固定配備していたが、現在はイギリスと同様にSLBMのみである。この他の核保有国については、No.197参照。